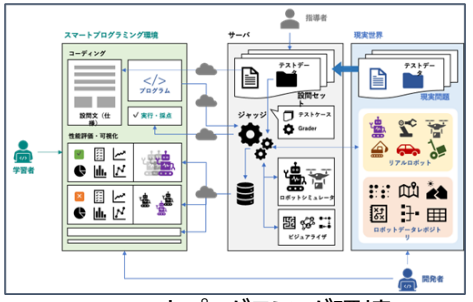
資料６－４

第５回新産業創出等研究開発協議会　会津大学

○ F-REIからの受託事業

「ロボットスマートプログラミング環境を用いたロボット開発・人材育成」を2023年度より開始（7年間）。プログラミング教育で定評のある会津大学「Aizu Online Judge（AOJ）」の概念をロボットプログラミングに適用し、ロボットに関するプログラミングの検証などのスマートプログラミング環境、シミュレーターによるロボット性能評価と、その教育応用を目指しており、今年度は評価機能の改善・拡張に取り組むほか、教育機関での試用開始を予定している。



スマートプログラミング環境

○ 新復興知事業

昨年度までに延べ約2,500人の浜通りの高校生等にロボットやプログラミングの講習を実施し、今年度からイノベ機構より新事業の採択を受けた。従来からの人材育成だけではなく、地元自治体や産業界と連携しながら浜通り企業へのインターンシップにも取り組み、福島の復興・創生を支える人材の確保・定着に寄与したい。


9/28 講義する渡部教授（RTF）

○ F-REIトップセミナー

５月22日に新入生（約250名）に対して、山崎理事長より「コンピュータ理工学部の皆さんへ～これからどう過ごす？大学ライフのススメ～」と題して御講演をいただいた。教育上、大変重要なものであり、2023年度から継続実施。


5/22 トップセミナー
山崎理事長
（会津大学大講義室）

○ ロボットテストフィールド（RTF）

・ **会津大学「月火星箱庭構想」**

RTF敷地内に設置の模擬月面クレータで地元企業と連携し宇宙探査実証試験を実施。今年7月、宇宙戦略基金を獲得し、学内に大型試験装置チャンバー（月面熱真空環境を再現、防塵試験可能、2028年4月から供用開始）を竣工。クレータとチャンバー、更には本学が得意とするシミューレーションやリモート通信技術を活用して他研究機関や企業との研究開発を進めていく。



直径約22mの月面クレータ地形（RTF）



世界最大級箱庭チャンバー（2026年7月）

・ **WRS2025**

昨年10月にRTFで開催されたWRS2025では、本学単独のみならず地元との共同チームでも出場し、「シミュレーション災害チャレンジ」での第2位、「プラント災害チャレンジ」での第3位を始め、参加した全4競技で好成績を残すことができた。今後もRTFを活用しながら、浜通りの企業等と連携した研究開発や人材育成に取り組んでいく。



WRS2025（シミュレーション災害）



WRS2025（プラント災害）

○ 浜通り関連の連携

・ **大熊町**

2025年9月　産業及び学術・教育の振興、人材の育成を図り、大熊町の復興創生に寄与することを目的に包括連携協定を締結。



吉田町長と東原理事長

・ **大熊ダイヤモンドデバイス（株）**

2026年9月 IoT・情報技術及び先端半導体技術分野における研究開発及び人材育成並びに浜通りを始めとする地域産業の振興等に寄与することを目的として包括連携協定を締結した。実産業の現場と教育を通じて得られる知見や技術を生かし、廃炉を始め、宇宙・次世代通信など幅広い分野で期待されるダイヤモンド半導体の研究開発、人材育成、社会実装にも取り組んでいく。



東原理事長と星川代表取締役